

こんな時こそ、学校に元気、子どもに元気、先生に元気を！

望ましい小中連携の在り方 — 管内小中学校の取組から —



小学校から中学校へ進学すると、学習面や生活面で大きな変化があり、その変化に対応できない、いわゆる「中一ギャップ」が生じ、不登校生徒の急激な増加がみられます。各教育委員会では、各学校がこうした状況を打開したり特色ある教育課程を編成したりできるように、小中連携を積極的に推進しています。今回は、中学校区内に複数の小学校があり中学校と敷地が離れている状況での取組と、小学校と中学校が同一の敷地内にある状況での取組をそれぞれ紹介します。

勝田二中学区の取組

勝田二中の学区には、枝川小、市毛小、堀口小、津田小の四つの小学校があります。しかし、それぞれ学校規模は大きく異なり、中学校進学後の学校生活に「ギャップ」を感じる生徒もいるようです。

こうした状況に小中連携の必要性を感じた校長、教頭、教務主任、生徒指導主事の各先生方は、市の定例の会合の最後に開かれる中学校区毎の話合いで、具体的な連携の在り方を協議しました。そして、平成21年度から中学校が主導して夏休みに学区内の小学校と合同の研修会を行うことにしました。一緒に講話を聞き、不登校や問題行動などの生徒指導上の問題、さらには学力面での課題などについても協議しました。

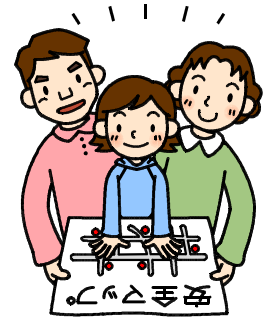
その後、

- ・学校だよりの交換・共有
- ・中学生の職場体験
- ・生徒会活動を中心にした中学校入学説明会
- ・学習習慣の共通化
- ・中学校区ごとの避難対応 など

で連携が広がっていきました。

堀口小では、「中学生の職場体験」を生かして、『第6学年の学級に配属された中学生に学校の様子を話してもらい、小学生の疑問に答える場』を設けました。2日間とはいえ共に生活する中学生から話が聞けることは、小学生にとって新鮮で、中学校が身近に感じられる絶好の機会になりました。

勝田二中学区では、互いの学校が離れていても、共通理解を図り連携を密にすることにより、継続的・計画的に交流を図っています。その結果、学区内の小学校にとって、職員が卒業生を大切にすること、児童が中学校を身近に感じること、そして保護者の中学校に対する不安の軽減につながっているのです。



国田小中では・・・



国田小中は、平成7年「人と人とのかかわりを広げる・義務教育9年間の一貫した教育を行う・地域と一体となった学校をつくる」という設立の趣旨のもと、県内初の併設型の小中一貫校として開校し、現在に至っています。

去る10月6日(水)に、「地域に根ざし人のために役立つ人間を育成する国田教育の推進」という研究課題で、小中一貫教育の研究成果を県内外に発表し、幼稚園を含む全学級で授業を公開しました。県内にほとんど前例がない中で、小中合同の研修会、指導

案の共同立案、教師の専門性を生かした小中相互乗り入れの授業実践など、年ごとに実績を重ねてきました。歴代の校長先生を始めとする教職員の熱意と水戸市教育委員会のバックアップで、小中学校が一体となり、今では、小中学校共通の学校教育目標や目指す児童生徒像を設定して、学校評価を小中一体として行うなど『小中一貫の国田教育』を積極的に推進しています。

国田小中の場合、公立学校ならではの『地域に立脚した学校教育の維持』を重視して取り組んでいることが、学校の施設設備や様々な掲示物の状況からもうかがい知ることができました。